

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 のんき・1

事業所番号	0673000634		
法人名	有限会社 和(のどか)		
事業所名	あっとホーム のんき		
所在地	山形県 東田川郡 三川町 大字猪子 字大堰端 336番地		
自己評価作成日	平成24年 8月 8日	開設年月日	平成 16年 12月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者のペースに合わせた、介護の提供を心がけています。夕方から夜にかけての入浴を実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

和風で広々とした建屋の中で、利用者はゆったりとした時を過ごしている。今年から始めた田んぼでの稲作り、畑での野菜作りや収穫を利用者は楽しんでおり、夏場での岩風呂と称する大(中)浴場での温泉気分等、利用者が事業所での生活が楽しめる工夫がなされている。医療面においても、定期的な内科、歯科医の往診が実施されており、この面においても安心して生活が送れる事業所となっている。

事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成 24 年 9 月 6 日	評価結果決定日	平成 24 年 10 月 25 日

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、日々実践しています。ホーム内にも展示し、業務に入る前にも確認できるようになっています。	各ユニットで2,3月になると、年度を振り返り次年度に向けてのケア方針を立て、職員間で話し合いを行い情報を共有し、見直しを行い実践にいかしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の買い物、理髪、学校行事、運動会、散歩やお祭り等、地域と関わりを持ちながら、日々過ごしています。	近所付き合いは散歩の途中で挨拶をかわしたり、町内の運動会のパン食い競争に参加したり、又事業所主催の夕涼み会に町内会の人達が参加している。今年も枝豆をコンテナで頂いたり、地域との関係は良くなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れを、積極的に行っています。(小学生の活動・唄や踊り、ミュージックケア、夏祭りへのボランティア参加等) 認知症に関連した講演活動を、地元役場とも連携して行っています。(伊藤代表)	/	
4	(3)	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、意見や情報の交換等に努めています。	定期的に運営されている。参加者も町職員、家族、民生委員、等と事業所関係者であるが、町内会長の参加がまだである。参加できる時間帯の設定や更なる声掛け等が望まれる。夏祭りのアンケート、防災、評価の改善課題について	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な運営推進会議や、随時に、情報の交換等を行っています。	運営推進会議に参加してもらおうと同時に、必要な時には訪問。県からは、定期的に訪問があり、事業所として連携できている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関に施錠はせず、自由に出入りできる環境作りを、実践しています。外出時には、職員が付き添う等の対応をしています。	玄関の施錠だけでなく、事業所はどこも開いている状態である。利用者の外出の癖や傾向を把握し、対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の会議において、虐待予防についての研修を行っています。虐待防止の外部研修に参加しています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等の外部研修会に参加しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用にあたり、始めに施設の見学をしていただき、おおよその説明も聞いていただいたうえで、利用を決めていただいています。介護に関して、不安や疑問、心配事等にお答えするとともに、契約時には、再度利用についての説明を行うようにしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を定期的開催し、地域、家族、役場、外部の皆さんの意見を取り入れるようにしています。また、家族へのアンケート調査も始めています。	「のんき便り」や手紙で日常生活を知らせ、家族に問いかけ、なんでも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。外部評価のアンケートの集約にも家族の協力が多く、事業所と家族の関係が良好であると思われる。	
11		運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員全体会議を行い、意見や希望を聞く機会を設けています。また、給料日毎に、個別面談を行っています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や、勉強会、研修会への参加奨励を行っています。		
13	(7)	職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一度の職員会議の中において、研修の場を設けています。資格取得や、勉強会、研修会への参加奨励を行っています。	月1回の隣接の「のんき」との合同会議で研修が行われている。外部研修にも参加し、交換実習の受け入れをして職員の質の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平成23年10月に、当法人が発起人となり、地域のグループホームの交流会を開催しています。	地域の事業所の参加で文化祭を開催して参加事業所との交流会を開き情報交換をしている。、他の事業所からの評価がとても高い。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や病院、各支援センターより事前に情報を頂き、必要な援助内容の把握に努めています。また、利用の初日には、専属の職員を配置し、安心して生活できるような対応をしています。(説明や荷物整理等も)			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の相談を頂いた時点より、出来る限り、困り事や相談事を尋ね、家族の思いに共感する事に努めています。施設見学に来られた際には、再度、家族の訴える内容の確認に努めています。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や病院相談室、各支援センターより事前に相談し、初期サービスを決定しています。利用の相談時において、他の施設利用が妥当な場合には、状況に適した施設の紹介をさせていただいています。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に、本人の出来ることを確認しながら、他の利用者、職員との関わりを持ちながら、日々過ごすようにしています。			
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に面会のできる雰囲気、環境作りに努めています。面会、通院、外出、外泊、理髪、季節毎の衣類の整理整頓等、家族の協力を得ての生活援助を実践しています。			
20		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの協力をいただきながら、冠婚葬祭、地域行事への参加、友人知人との面会等への援助を行っています。(墓参り・買い物・外出・温泉宿泊・外食・etc..)			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立する事が無いよう、過去の生活歴を考慮した、自立支援援助を実施しています。常に、利用者同士、職員が関わりを持ちながら、生活しています。			
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も、家族からの相談は、随時行っています。また、運営推進会議の場において、退所されました家族の専門分野である、防災のレクチャー等、行っていただいています。			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族が何を望んでいるかを考えながら、援助を行っています。面会に来られた時に、担当スタッフが聞きとり等を行っています。また、本人らしさとは何かを考慮し、意向の把握に努めるようにしています。	日常生活において、理念である「本人らしく」過ごしてもらう事を念頭に、できる事、出来ない事等を考慮しアセスメントしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より、生活歴や既往歴、嗜好についての聞き取りを行い、サービス提供に反映させています。また、入所後においても同様です。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活において、利用者個人の生活リズムに添った、サービス提供を実施しています。(食事時間・可能な自立支援内容・他の利用者との関わり・時間経過による、精神面の変化等)			
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人より聞き取りした内容を、ユニット会議の場で話し合い、介護計画を作成しています。	ユニット会議で日々の利用者、家族からの要望を話し合い介護支援計画を作っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施した内容、結果については、個人記録に残しています。これらを基にして、介護計画の見直し等に役立てています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型住宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に関しては、必要に応じて利用し、関わりを持ちながら生活しています。(買い物・ボランティア・町内会の行事・理髪・etc・・・)		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診・通院に関しては、家族、本人よりの希望を聞いたうえで、実施しています。内科や歯科に関しては、定期的な往診による受診を実施しています。緊急性を必要とする通院に関しては、ホームで対応しています。	月2回歯科医と内科医の定期的往診を受けており、かかりつけ医への通院、受診については家族の協力を受けながら行っている。緊急時は事業所に対応し、家族に報告している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じ、随時医療機関への連絡調整を行っています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては、家族・医療機関・ホーム間で十分に話し合い、理解していただいたうえで、状況に合った対応をしています。入院中においても、家族、医療機関との連絡を密にし、身体状況の把握に努めています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時において、家族の希望を聞き取るとともに、ホームでの対応等を伝えるようにしています。また、身体状況に変化の見られた時点で、主治医・家族・ホーム間で話し合い、予想される今後について、話し合いを行うようにしています。	重度化した場合の方針は入所時に利用者、家族に説明し了解を得ている。事業所としてはこれまでの事例からターミナルケアにあたっては医師、家族、事業所で話し合いを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応のマニュアルを作成するとともに、訓練も実施しています。			
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難のマニュアルを作成するとともに、定期的な訓練を実施しています。	マニュアルは整備され、定期的な避難訓練等は消防署が参加しての訓練が行なわれている。近接の赤川の洪水の時の避難場所、避難基準等については特に定まっていない。	運営推進会議で話し合いを行い、避難場所や基準などを検討し、事業所の役割、三川町の役割、地域の役割等を明確にして定期的な訓練を行うことが望まれる。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関しては、法人内で研修も行い、日々の実践に役立てるようにしています。	法人内で年1回は研修の課題にし日常のケアに役立てている。更に、日々のケアの言動を反省し、各自が意識していくことも望まれる。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	多くの場面において、自己決定ができるように、本人に尋ねる機会を設けています。(食事・買い物・外出・入浴・etc..)			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れのおおよそは、決まっていますが、全ての利用者を1つの流れに合わせることはありません。個人の生活リズムに合った、サービスを提供しています。(起床・就寝・食事・入浴・外出・etc..)			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣・理美容・化粧・・・その人らしい援助を行っています。			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事、調理準備、後片付けは、利用者と一緒にしています。また、会話をしながら、ゆっくりと食べるようにしています。	事業所で利用者が主になって作っている野菜を中心に献立を作っている。食事中はとて和やかで、会話ははずみ楽しく食事をしていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>いつでもお茶が飲めるよう、準備をしています。必要時には(特に夏場において)、定時での水分摂取援助を実施しています。他の特別養護老人ホームのメニュー等を参考にし、食事作りをしています。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを実施しています。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表を作成し、排泄誘導を行っています。随時、定時の声掛けや誘導を行っています。</p>	<p>排泄チェック表を利用し、トイレでの排泄を基本としている。夜はリハパンを利用している。オムツ使用者は2名である。便秘は服薬で調節している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>内科医との連携だけにとどまらず、毎朝のヨーグルトの提供や、水分補給、運動等の対応も行っています。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>午後から夕方にかけて、マンツーマン対応の個浴を実施しています。また、入浴を楽しんでいただく意味での、複数名での入浴を、岩風呂にて実施しています。</p>	<p>入浴時間の改善で午後から夕方に個浴であるが、夏場は岩風呂(大型屋上)を利用し何人かで入浴し、外の景色をみながら温泉気分を楽しみにしている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個人の入眠パターンを把握し、個別の対応を実施しています。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬ミスが無いように、確認体制を整え、服薬援助にあたっています。服薬等に変更があった場合には、スタッフ間で情報が共有できるように、専用のファイルに申し送りを行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活全般において、過去に利用者が持ち合わせていた能力が発揮できるよう、役立ちの場の提供に努めています。(調理・畑仕事・掃除・裁縫・手芸・洗濯・etc...) 掃除や植木へのみずやり等、役割の決まっている内容も多々あります。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・温泉宿泊・外泊・墓参り・通院当・etc...スタッフとだけでなく、家族の協力も得て、外出しています。	事業所で特別の行事としての外出は計画していなく、日常生活で畑、田んぼの仕事等を行っている。家族の協力があり、温泉、墓参り、外泊等は各自の家族が行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことに関して、本人・家族・スタッフで話し合ったうえで、対応を決めるようにしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者・家族の了解を得たうえで、電話連絡の対応をしています。家族からの電話に関しては、随時引継ぎをしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事のテーブル配置以外は、何処にいても良い、当ホームの決まりです。利用者同士が落ち着いて過ごせる、環境・人間関係作りを実践しています。	ゆったりと思いいの所で仲のいい利用者同士で語らい、各自の役割を見つけており、山菜取り、畑仕事、草取り、稲作り、よもぎ茶作り等を楽しんでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外でも、一人になり、ゆったりとできる環境になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースの許す限り、居室への物品の持ち込みは可能です。思い出ふかいものや、大切な物に関しては、積極的に持ってきていただくよう、契約時に伝えています。	テレビの持ち込みを希望する家族もあるようであるが、事業所としては各自の部屋にテレビを置くと閉じこもりになるため、置くためのアンテナの設置はしていない。家族に事前に説明もあと良いと思われる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室や、共用で使用する場所に関しては、混乱無く認識し使用できるよう、名前や、張り紙等の対応を実施しています。		